

令和4年度第10回充実検討委員会回箕面市支援教育充実検討委員会 議事録

日 時：令和5年1月31日（火）午後6時30分から午後7時10分

場 所：オンライン開催

出席者：伊丹委員長、小田委員、五十嵐委員、橋本委員、中西委員、谷口委員、今村委員、吉川委員、（4人欠席）

新居教員（小学校通級担当者）、文教員（中学校通級担当者）

事務局：藤迫教育長、藤村副教育長、岡局長、藪本副部長、金城学校教育監、濱口担当副部長、三島学校教育室長、高取児童生徒指導室長、柴田教職員人事室長兼教育センター所長
人権施策室：川田室長補佐、後藤人権教育グループ長、田口参事、大坪参事

傍聴者：8名

1. 開会

（伊丹委員長）

定刻となりましたので、令和4年度第10回箕面市支援教育充実検討委員会を開催いたします。本日も司会進行を務めさせていただきます、委員長の伊丹でございます。よろしくお願いいたします。本日は前回に引き続き、通級担当者として、小学校で通級を担当されている新居教員と、中学校で通級を担当されている文教員にもご参加いただきます。それでは、議事に入っていきたいと思います。案件1、「答申について」でございます。事務局より、ご説明をお願いいたします。

2. 議事

案件1 答申について

（事務局：後藤人権教育グループ長）

○資料に基づいて事務局から説明

（伊丹委員長）

ありがとうございました。前回の素案から若干修正が入りましたが、その説明につきましてご意見、ご質問はありますか。国通知を引用している箇所、気になったのですが、文科省が通知を発出した日付の記載があれば良いかと思えます。

（事務局：後藤人権グループ長）

その部分につきましては、9ページに、令和4年4月27日付けで文科省から発出されたと記載させていただいており、インターネット等で検索し、見ていただけるよう、文科省通知の正式名も併せて記載しております。

（伊丹委員長）

了解いたしました。「小学校と中学校の歩み寄る」というところの言葉の修正などに対する、ご意見はございませんか。

（五十嵐委員）

答申素案では「中学校に寄せていく」という表現だったと思いますが、小学校としては、中学校に向けたことを少しずつ増やしていくことができれば良いというイメージを持っていました。そのため、「歩み寄る」という記載を「中学校に進学してからも、小学校で取り組んできたことと同じようなことを行う」というふうに捉えないように、考えていかなければならないと思えます。

（事務局：後藤人権教育グループ長）

今おっしゃっていただいたように、もともとの意図としては、小学校と中学校の支援に差があるところを意図して記載をさせていただいてました。また、「歩み寄る」という記載は、小学校と中学校の段差をなくしていくべきであるということ在意図しております。

(五十嵐委員)

わかりました。ありがとうございます。

(伊丹委員長)

私も再度読ませていただいて、非常によく出来た答申になったと思います。小田委員にご意見いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

(小田委員)

「歩み寄る」という表現の意図はわかるのですが、小学校と中学校の支援がかけ離れているというように捉えられる場合もあるかと思いますが、他により言い方がないかと考えているところです。

(伊丹委員長)

わかりました。「歩み寄る」が、1番包括している表現かと思いますがいかがでしょうか。

(小田委員)

小学校と中学校では、当然、文化が違うので、小学校から中学校への連続性という観点をきちんと踏まえた上で「歩み寄る」ことが大切かと思っておりますので、その連続性について意図する言葉があってもよいかもしれません。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。確認なのですが、この答申を教育委員会に行った後に、「新しい版」のような形で次年度もこの答申をたたいていくことは可能でしょうか。

(事務局：後藤人権教育グループ長)

いただいた答申としましては、たたくような形にはなりません、この答申をもとに、教育委員会が今後の支援教育の方針を策定していく形となります。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。小田委員がおっしゃった「歩み寄る」というところの意図の具体的な説明をお願いし、教育委員会の方針を決めていただけたらと思います。よろしく願いいたします。それでは、教育委員会に答申させていただきたいと思っております。詳しくは、答申に記載がありますが、委員長より抜粋して答申を申し上げます。

まず、学びの場の選択肢を増やすために、通級指導教室の全校配置。そして、支援教育介助員の名称変更及び業務内容の変更を行う。特別支援学校教諭の免許を取得するための費用のサポート。各校巡回し、学校の困り事などに対応することに特化した「(仮称)支援教育専門員」の配置。また、令和4年4月27日に発出された、文部科学省の通知の対応については、検討委員会で議論を重ねた様々な方策を確実に実施していくことができれば、文部科学省の通知の趣旨のとおり、障害のある子どもと障害のない子どもが可能な限りともに過ごしながら、一人一人の教育的ニーズに応じた学びの場の整備が実現できると考えるという様々な提案が答申に記載されています。充実検討委員会で議論した内容を踏まえ、教育委員会には、ご対応いただきたいと思っております。それでは、オンライン上ではございますが、この内容をもちまして、教育長に答申させていただきます。もしよろしければ、藤迫教育長より一言いただけますか。

(藤迫教育長)

まず、伊丹委員長、小田委員、野口委員をはじめとする委員の皆様、オブザーバーの皆様には本当にお忙しい中、10回という長期にわたり、熱心なご議論をいただきましたことについて、御礼を申し上げます。ありがとうございます。また、本日は欠席されてる委員のかたがおられますので、機会を見つけてお礼を申し上げたいと思っております。

今回の検討委員会においては、通級の全校を設置や、現在の支援教育介助員の在り方など様々な観点でご議論をいただきました。私も可能な限り傍聴いたしておりましたが、皆様の活発な議論に非常に意味のある、奥行き深い会議であったと感服した次第でございます。当該委員会においてはパブリックコメントも実施していただき、それらを踏まえて、本日、答申をいただくに至りました。教育委員会といたしましても、皆様の議論を伺いながら、並行して、本市の今後の支援教育の方向性につ

いて、取りまとめる作業を進めてきたところではありますが、本日、答申をいただきましたので、改めて、この答申を踏まえ、行間に込められた様々な議論の経過や意見等も汲み取りながら、今後の方向性を最終的に取りまとめていきたいと考えています。改めて申し上げるまでもありませんが、このような計画や方針というのは、策定が出来たからといって、それで何かに到達したということでは決してありません。ここからの取組が非常に重要になります。また本件につきましては、多様な意見があることも重々承知しております。まずは、いただいた答申の内容や、教育委員会で取りまとめた方針を、学校関係者はもちろんのこと、保護者の皆様に丁寧に説明し、十分に理解いただくことが最優先の作業であると思っていますので、方針を策定次第、早急に説明を行っていきたくて考えています。また、答申でお示しいただいた取組を実現していくための環境整備などについて、必要となる予算や人事配置等について、現在、来年度に向け、事務的に手続を進めているところです。本日、答申をいただきましたので、今年度の本委員会は終了とはなりますが、検討委員会の皆様には、今回の答申を受けて、箕面市が実施する支援教育に対して、来年度以降も引き続き、効果検証を行っていただきたいと考えておりますので、どうぞ継続してよろしくお願ひしたいと思います。簡単ではございますが答申を受けての、私からの御礼の御挨拶とさせていただきます。本当に皆様、長い間ありがとうございました。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。本年度の検討委員会は、ここで終了となりますので、委員の皆様より感想を一言いただけたらと思います。

(五十嵐委員)

このたびは小学校の代表という形でこの委員会に参加させていただき、ありがとうございました。学校現場にいと、学校のなかだけの狭い世界なってしまうのですが、この委員会では、様々な立場のかたがたからお話聞けたということが、すごく勉強になりました。市全体としても、新しい方向に向かっていこうというその気持ちを一つに、話し合いが出来たということは何よりもうれしいことですし、これからも頑張っていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

(橋本委員)

私は中学校の校長の代表として参加させていただきましたが、箕面市の本気度を感じることできる答申になったと思います。今後、これが実現していただけるように、頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

(中西委員)

私は小中一貫校の代表として参加させていただきました。本当にありがとうございました。私も、箕面市の学校で勤めるなかで、やはり箕面市は昔から、支援教育については、周りの地域をリードしていくところでありましたので、勉強になりました。また、改めて方針を考える際に、私の意見も入れていただき、学校全体で取り組んでいくことが大事だと思ひました。この思いが教職員にとってきちんと根づいたものでありますように、今後とも学校運営に取り組んでいきたいと思ひます。本当にありがとうございました。

(今村委員)

このたびは本当に、参加させていただき、きありがとうございました。私は小学校の支援担任の代表として参加させていただきましたが、いろいろな立場のかたのご意見などを伺ひまして、私自身もすごく勉強になりました。次は現場の私たちが、この答申を大切にしながら、いろいろと意識も変えながら、日々、子どもたちのために、頑張って取り組んでいこうという新たな決意の日になりました。ありがとうございました。

(吉川委員)

充実検討委員会に中学校の介助員として参加させていただきました、ありがとうございました。直接、現場の介助員の声を聞いていただく機会をいただき、本当に感謝しております。改めて、介助員の役割や働き方を振り返る機会をいただき、勉強にもなりました。来年度から新たな運用が始まりますが、これからも支援を必要とする子どもたちに、タイミングよく過不足のない適切なサポートができるよ

う、これからも私たちのできることを精いっぱい頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。本当にありがとうございました。

(谷口委員)

中学校代表として、この委員会に参加させていただきましたが、私自身、いろいろな立場の先生がたの話聞くことができ、とても勉強になりました。現場としては、この場で練られたすばらしい答申をもとに、どのように、現場が変わっていきけるか、期待している反面、現場の我々の意識改革もしていかなければならないということを再確認させていただきました。ありがとうございました。

(新居教員)

途中からですが、通級も検討委員会のメンバーに入れていただき、意見を言える場をつくっていただき、本当に感謝しております。また来年度、箕面市の通級全校設置に向けて、大きく動いていただいたことも本当に感謝しております。本当にすてきなよい答申ができあがったと思いますので、これから具体に向けた動きがとても大切になると感じています。担任の先生を含めた全教職員に、この答申の内容をどのように周知し、来年度、学校体制をどのように作っていくかというところが本当に、大切だと思いますので、4月からスムーズに学校がスタートできるように、この後、2月3月に、校内でも話し合いを進めていけたらいいと感じています。また、先日の通級担当者会の中でも、伊丹委員長の話をもとに箕面市の全教職員で聞く機会がまたあればいいのではないかという話も出てましたので、伊丹委員長のすてきな話を聞きながら箕面市の支援教育を進めていければと思っています。本当にありがとうございました。

(文教員)

私も途中から参加させていただいて、様々なかたのご意見を伺うことが出来、大変勉強になりました。ありがとうございました。通級全校設置ということで、今後、自分自身が行っている通級指導や、そのような内容の発信が重要になると感じていますので、襟を正して、今後も頑張っていきたいという思いを新たに持ちました。また、3月に伊丹委員長に、第二中学校へ来ていただき、研修をしていただくこととなりますので、その際は、ユニバーサルデザインや合理的配慮などについて、箕面市の教職員に伝えていただければ嬉しく思います。よろしくお願いたします。ありがとうございました。

(小田委員)

この委員会では、様々なかたから支援教育の在り方、特に学びの場について、ご意見を伺うことができ、とても勉強になりました。全校通級設置することで、そのための担当者の育成など課題もあるかと思っておりますので、設置してよかったと思えるような形になるよう取り組んでいくことが、次の段階であると思っております。また、介助員の体制についても、今までのよかった点は継続しながらも、改善していくことが大切であると思っております。そして、私もこの答申を活用させていただきたいと思っております。また、何らかの形で関わらせていただくことがあれば、よろしくお願したいと思っております。ありがとうございました。

(伊丹委員長)

小田委員は引き続き研修等での支援をいただくことになっておりますので、よろしくお願いたします。

では、最後に私から一言申し上げさせていただきます。このたびは、限られた時間のなかで、すばらしい答申を作成していただいたことに心より感謝申し上げます。また、それに関しまして、各学校の先生がたや、通級担当の先生に関わっていただいたこともよかったと思います。また、何よりも親の会として、保護者のご意見を賜ったことも、本当にありがたかったと思います。さらに、パブリックコメントにつきましても、多数のご意見をいただくことができ、箕面市はすばらしいと思いました。また、野口委員や小田委員には専門的な立場からご意見をいただきました。私は実践の研究者ですので、これから通級の全校配置の、成果を出し、先生がたの育成についても協力させていただけたと考えておりますし、何よりも箕面の子どもたちを幸せにしたいので、インクルーシブ教育システムに向けて、頑張っていきたいと思っております。これからも、私も尽力してまいりたいと思っております。本当にありがとうございました。

では、案件2、「その他」について事務局から何かございますでしょうか。

案件2 その他

(事務局：後藤人権教育グループ長)

令和4年度の委員会の開催につきましては、本日で終了となります。令和5年度の開催につきましては、現在未定ではございますが、年3回程度、開催できればと考えておりますので、開催日が決まり次第、ご連絡をさせていただきます。また、委員の皆様任期につきましては、2年間とさせていただいておりますが、保護者会の役員改選など、参加いただいている委員が変わる可能性もございます。新しく委員になられたかたにつきましては、前委員の任期を引き継いでいただくという形となります。改めまして、今年度、委員を務めていただきました皆様につきましては、ご多忙にも関わらず、月に1回という大変頻度の高い委員会の開催に、ご参加いただきまして、本当にありがとうございました。事務局より御礼を申し上げます。

3. 閉会

(伊丹委員長)

以上をもちまして、令和4年度第10回箕面市支援教育充実検討委員会を閉会します。皆様本当にありがとうございました。